

- $\text{\TeX}$  の文章は,

```
\begin{document}
...
\end{document}
```

の間にすべて記述されます. この中に書いてあることだけが, コンパイル時に反映されます.

- $\backslash\text{begin}\{\text{document}\}$

の前の部分を**プリアンブル部**といいます. ここに何を書くかも  $\text{\TeX}$  で文書作成をするうえでとても大事なのですが, とりあえず今は何も気にしないことにしましょう.

- $\backslash\text{chapter}\{\text{章のタイトル}\}$

で, 章を作れます. 章番号は  $\text{\TeX}$  により自動的にふられます.

- $\backslash\text{section}\{\text{節のタイトル}\}$

で, 節を作れます. 章と同様に, 節番号も自動的にふられます.

- $\backslash\text{sum}$

のように, 記号の英名の前に  $\backslash$  をつけると, タイプセット時に対応する記号が表示できます. たとえば上のコードをタイプセットすると,

$$\sum$$

となります. (ただし, コマンドは**数式環境**の中でしか基本的には使えません)

- $\$ \text{数式} \$$

のように, ドルマークで囲んだ中は**数式環境**となります.

数式環境では, 数式を記述するさまざまな**コマンド**を使うことができます. たとえば,

$$\$f(x) = \sin\{x\}\cos\{x\}\$$$

と記述すれば,  $f(x) = \sin x \cos x$  のように数式が綺麗に表示されるわけです.

- $$$ \text{数式} $$$

のように, ドルマーク 2 つずつで数式を囲むと, その数式環境は自動的に中央寄せされます.

$$$$\sum_{i=1}^{\infty} \frac{1}{i^2} = \frac{\pi^2}{6}$$$$

と記述すると, 自動的に

$$\sum_{i=1}^{\infty} \frac{1}{i^2} = \frac{\pi^2}{6}$$

という風に, 数式が真ん中に寄ります. とても便利です.

- $\backslash\text{begin}\{\text{shadebox}\}$

あいうえお

$\backslash\text{end}\{\text{shadebox}\}$

で、影付きの囲みを使うことができます。上のコードをタイプセットすると、

あいうえお

となります。

- ちなみに、

```
\begin{screen}
あいうえお
\end{screen}
```

とか

```
\begin{boxnote}
あいうえお
\end{boxnote}
```

もなかなか使えます。

- `{\bf あいうえお}`

で、**あいうえお**のように太字が再現できます。

- `\uline{あいうえお}`

で、文字に下線を引くことができます。

- 今回使うコマンドをまとめました。

コマンド名	コンパイル結果
<code>\dim</code>	dim
<code>\Image</code>	Im
<code>\Ker</code>	Ker
<code>\simeq</code>	$\simeq$